



2022年度 年主題 〈共に喜んで ~すべての歩みの中~〉

0歳児4月主題「はじめまして」
1・2歳児「よろしくね」
月のねがい
 ◎神さまからお預かりしたいのちとして大切にされる (0)
 ◎新しい場所で友だちや保育者と出会う (0)
 ◎保育者と祈ったり、賛美する中で神さまと出会う(1.2)
 ◎受入れてもらえる安心感をもち、過ごす(1.2)
 ◎春の草花、虫などに触れ、心を開いていく(1.2)

3・4・5歳児4月主題「はじめの一歩」
月のねがい
 ◎新しい生活の場で神さまの愛を感じる時賛美や祈りの時心地よく感じ安心して過ごす(3)
 ◎自分が受け止められ安心を重ねていく中で好きな遊びや場所が見つかる (3)
 ◎春の訪れを喜び、草花や虫など命あるものと触れ合うことや絵本や歌などに親しむ(3)
 ◎賛美や祈りの中、聖書のお話を聞く時、また生活を通して、神さま・イエス様の愛を感じる(4.5)
 ◎これまでの関わりを重ね新たに会った保育者や友だちと交わる中で居場所が生まれる(4.5)
 ◎一人ひとりの心とつながりを持ち、生活や遊びの一步一步を支える。困った時や悲しい時に相談できる存在となる(4.5)



今年もにぎやかにスタート!

卒園生を送ってから、あっという間に新年度が始まりました。今年もコロナウイルスとにらめっこしながら、子どもたちをいつも真ん中に置いて、行事や日々の保育を楽しんでいきたいと思ひます。保護者の皆様には、様々なところでご協力をいただくことになりませんが、どうぞ温かい目で見守っていただけたらと思ひます。2022(令和4)年度もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、2日間の準備期間をとおして新年度がスタートしました。クラスの先生たちも子どもたちも心機一転、新クラスとなりました。私は、昨年度こすす組の担任をさせていただきました。十数年ぶりの担任は私にとって保育教諭の素晴らしさ、楽しさを改めて思い出させてくれました。私の胸に全力で飛び込んでくれた子どもたちが本当に愛おしくて可愛く感じられ、みんながやりたいことは、なんでもしてあげたい!と思う一年でした。年度末は、子どもたちが提案してきた秘密基地作り。最終的には3階建ての立派な基地となったもののまだまだ作り足りない思いを残して終了しました。しかし、作ったものの、次の先生に引き継いでもらうにはあまりにもボロボロで、結局一旦舞台袖に眠らせることにしました。すると、昨日年長の男の子が、「先生!なんで秘密基地捨てたの?!!」と言うので、「捨てていないよ~!また体育館に置くからね!」と伝えたところでした。

同じクラスだった子どもたちが舞台袖にある秘密基地をずっと眺めている姿を見ると、私たち保育者は、新年度で気持ちを切り替えようとするのですが、子どもたちの遊びはずっと継続していたことに気づかされました。「遊びたい!」という素直な思いを大人の都合で勝手に終わらせてはいけないなと思ふことでした。そこで、秘密基地は相当傷んではいませんが、卒園生の卒園アルバムを渡す日に登場させて、体育館で思いっきり楽しめたらと思ひます。体育館にある段ボールの山を見かけたら、ゴミではなく子どもたちの汗と涙の宝物だと思ってくださいね!

森山



今月の聖句 「わたしはよみがえりです。いのちです。」

ヨハネ 11:25

教会の一大イベントはクリスマスと思ひている方は多いでしょうが、実はイエス・キリストの復活を記念するイースターの方がはるかに大きなイベントです。欧米の教会では、特にその傾向が強いのです。最近では、イースターを迎える春の季節には、日本でもコンビニやスーパーでイースターエッグのチョコレートを見るようになりました。そのように一般社会に浸透する程、教会はイースターを大切にしてきた歴史があります。イースターはいのちの尊さ、重さに思いを寄せる時でもあります。近年、私たちは様々な出来事に遭遇する中で、いのちの尊さ、重さを思わされています。新型コロナ、毎夏起こる水害、地震、そしてウクライナで起きている悲しい出来事...。これを取って見ても、いのちの尊さ、重さを考えずにはおれないものばかりです。いのちを大切に出来るかどうかは、幼児期の体験が大きく左右します。あのアドルフ・ヒトラーは複雑な家庭環境で育ち、愛情に飢えて育てられた経歴を持ちます。独裁者となってから、飼っていた犬に愛情を注ぐ一方、600万人ものユダヤ人虐殺に手を染めました。これは、子ども頃、十分な愛情を受けて育つことが、どれだけ大切なことであるかを物語っています。幼少期に必要な愛情を受けて育つた子は、大人になってからも、いのちの尊さ、重さが分かれます。いのちを大切に出来る大人になることができます。各家庭で、こども園で、子ども達がそのように愛され、豊かに成長するように、祈ってやみません。

4月の行事予定

9日(土)	入園式・クラス会(親子で降園)
14日(木)	田植え
16日(土)	役員会
23日(土)	親子遠足、父母会総会
26日(火)	4月誕生会

5月の行事予定

10~20日	家庭訪問
12日(木)	5月誕生会
16~20日	フリー参観週間
17日(火)	交通安全教室
18日(水)	弁当日
21日(土)	不審者対応研修(休業依頼)
25日(水)	弁当日
未定	前期内科検診



入園式



お母さんはきれいな空気のようにやさしい愛を一日じゅう注いでいることばはあたたかい空気のようにうれしい愛を一日じゅう吸っているどちらも気がつかずに

河野進



交通安全教室



親子遠足



田植え



つながって生きる喜び

木々の緑がキラキラと陽の光に反射しています。園庭に色鮮やかに咲き誇っている花々や遊具たちが、新しいこどもたちを歓迎しているようです。アマリスはやつと蕾が膨らみ始め、ツツジも今年はずつくりのようです。ご入園、ご進級おめでとうござります。改めて、続くご縁と新しいご縁に心から感謝し、子どもたちの健やかな育ちを共に願ひ、平安の祈りを日々重ねていきたいと思ひます。

本年度のキリスト教保育の年間主題は、「つながって今、わたしを生きる」が示されました。年間主題は「保育目標」というものではなく、日々保育を営む中で、常に「立ち返る場所」として位置づけております。コロナ禍の中、つながりが断たれているように感じる今だからこそ与えられた年間主題だと思ひます。当たり前のように出来ていた事が、縮小や延期をせざるを得ない状況に置かれる。一つ一つを精査し、子どもたちにとって何が大切なのかを問ひながら決断する連続でした。それでも、一通りの行事や活動が達成できたことは、まさに恵まれたこと感謝です。毎朝の礼拝の聖話やあらゆる場所や、共に捧げた祈りや讃美を通して与えられる神さまとのつながり。子どもたちの豊かで健全な育ちを願ひ合う保護者の方々や職員と子どもたちとのつながり。そして、園を取り巻く豊かな自然や園内の様々な事象などの環境とのつながりを意識していきたいと思ひます。

豊かな自然の中で、感性を震わされる体験を重ねること。子ども同士、保育者とこどもたちが、思いや考えを出し合って遊びや生活を創り出すこと。そして、神さまによって与えられた子どもと命と成長の一コマを、保護者の皆さんと共有し共感できること。子どもに相応しい生活とは何かを常に考えながら、共に喜びあえればと願ひます。また、在園中に何度か耳にたれに言葉、「タイケン・タンケン・タイケン」が幼児期の子どもたちには必要だ、と私たちは考へています。保育活動や行事で味わう様々な体験(出会い)。様々な事象への興味・関心と集中探検(探求)。そして、少し大変(克己)なことにも挑戦する意欲。今年もこのキャッチフレーズで共に育ち合えれば幸いです。

集団生活を初めて経験する子どもたちにとって、園生活は期待と不安の混じったものでしょう。初めての環境は大人でも緊張します。何より「だいたいぶだよ!」という言葉が安心へと導きます。「わたしは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と聖書にあります。神さまが与えて下さるこの環境の中で、つながりが育ち合う生活を目指して参ります。子どもたちがあがまがまの「自分」をしっかりと生きていけるよう祈りつつ、保護者の皆様と心を込めて寄り添うことが出来ますよう努力してまいります。

まだまだ収束という晴れ間は見えませんが、いつの日か必ず厚い雲が去り、陽光が差し込んでくる日を祈りつつ待ちましよう。感染された方への配慮も大事だと思ひます。六十五年目を迎える本年度も、職員一同心を尽くして努力して参ります。何卒ご支援の程を宜しくお願いいたします。

園長

令和4年度新学期がスタートしました!

私たちが保育の中で大切にしたいもの

☆一人ひとりを大切に
 子どもたちは神さまから命を与えられ、愛されているかけがえのない存在です。その個性と人格をありのまま受け止め、尊重することが第一歩です。信頼関係を築くなかで、子ども自身が自分を信じ、自分らしい歩みをはじめることが出来るように、絶えず応援したいと思ひます。

☆知りたい、やってみたい!!
 子どもが夢中になって、生き生きと遊ぶ事は「生きる力」に繋がります。工夫したり、悩んだり、納得するまで繰り返す中で、思考力や騒動力そして、「意志」が育まれます。好奇心や探究心を大切に受け止め、子どもと共に心を動かしていきたいと思ひます。

☆友だちっていいな!
 友だちと遊ぶなかで、子どもは自分と他者の違いを知っていきます。たくさんぶつかり合いや葛藤を通して、悩み、考え、やがて理解し合い、「共に生きる」ことを学んでいきます。認め合い、力を合わせることの楽しさ、喜びを味わうまでの道筋を大切にしたいと思ひます。

☆神さまの恵みを知り、世界に目を向ける
 自然の美しさや不思議さに気づき、その恵みに感謝する心を育みます。けれども、世界に目を向けるとき、現実には人と自然との関係や、国と国との関係に多くの課題があります。人と自然との調和、世界の平和に、私たちがどう貢献できるのか、共に考え、祈り、やがて行動できる人になりたいと思ひます。

幼児賛美歌Ⅱより
 この花のように 美しい心を
 神さまください 小さなわたしにも
 この花のように 人々を愛せる
 心を下さい 小さなわたしにも